2023/3/19　　「 道、真理、命 」　　ヨハネ 14:1-7

受難節もイースターまで、あと３週間となりました。年度末の慌ただしい季節ですが、１日の中で、わずかな時間でも、イエス様を心に思い、祈りを捧げましょう。新しい命の光が、その人の心に届くのをきっと感じることができます。

人生のピント合わせ

共生と多様性をいうことが、現代社会のテーマとなっています。町内のコンビニの店員さんは外国人となり、行きつけのスーパーでもモスリム向けの食品表示がされるようになりました。オリンピックには同性愛者の選手の活躍が報じられ、家族のあり方、ライフスタイルも大きく変わりました。生涯学習が提唱され、SDGs、AI 技術の発展・・・、10 年前とは様変わりした社会の姿があります。

当たり前のことが、時代の流れで変わっていく時に、私たちは言いようのない気持ちになります。恐れや怒りを感じ、生きる意味さえ分からなくなるような気持ちになります。それは、人生の焦点がぼやけて、世の中についていけないと感じ、前に進むことが不安になった姿ではないかと思うのです。

今朝の聖書の箇所は、「私が道だ」と力強く声をかけてくださるイエス様の声が響いています。二千年前の世界からの「着信音」にも拘らず、その言葉に耳を傾け、信じていく時、私たちの将来が、明るく照らされる感覚を味わいます。２１世紀の日本の小さな私が歩むべき道に、ピントが合って、進みたい方向を見つけられるのです。

イエス様の「私は道だ」という言葉が、私たちに確信と、探究心を与えてくださるのは、そこに真理と命があるからなのです。一見、人気のある道であっても、その先が行き止まりでは迷いの道となってしまいます。派手で快楽を与える道であっても、その先に負債や死が待ち受けているなら、幸せにはなれません。イエス様は、受けるよりも与える者は幸いであると真理を示して明るい光に私たちを導き、永遠の命という約束で私たちを死から守り、その心を奥底から支え、成長させてくださるのです。

イエスは唯一の道

日本は多神教の思想社会です。一枚の花びらにも同じいのちが宿っているという感覚は、わたしも深く共鳴します。ただ、それを信仰にもあてはめ、例えば「どの宗教でも山の頂上は同じだ」と言って、主イエスの救いを、他の宗教の救いと混同されることには、同意できません。栄養があるからと言って、ご飯もパンも、味噌汁も牛乳も、全部ミキサーにかけたドロドロの飲み物を、「最高の栄養だ」と差し出されても、きっと誰も飲まないでしょう。

イエス様の道には、他にはない真理と命があります。時代に振り回されず、ピントが絞られるのは、そのためです。それだけに、時にはつまづきや試練を味わうこともありますが、それを超える確信と探究心を、イエス様は与えてくださるのです。